

# さんけん新聞

発行  
NPO法人  
三段峡—太田川  
流域研究会  
(代表・本宮炎)

〒731-3813  
広島県山県郡  
安芸太田町  
柴木1734  
090-34213046  
◇  
<https://sanken-hiroshima.org/>

## 一口メモ

▼悪谷まぎまぎ  
西日本豪雨災害が発生した七月六日、石樋の探勝路が高さ2メートル以上の土石で埋まった。他にも谷筋ごとに土砂崩れや落石があった。かつて「悪谷」と言われた自然の厳しさを生きた。

上の土石で埋まった。他にも谷筋ごとに土砂崩れや落石があった。かつて「悪谷」と言われた自然の厳しさを生きた。

せつける。長い年月をかけた侵食が現在の景観を形成した。正面口から水梨口までの開通に一カ月を要した。

## ハコネ、ヒダなど四種見つかる 貴重な生息環境を確認

日本ハンザキ研究所の岡田純理事長を招いて7月24日、9人が参加して三段峡と内黒山でサンショウウオの観察会を開いた。ハコネの幼体など4種類を見つけ、貴重な生息環境を確認した。



内黒山で見つけたサンショウウオ(上)、オオサンショウウオが生まれて

岡田理事長は観察会を前に「三段峡はサンショウウオが自然の状態で繁殖する環境が整っている有数の地域」と評価し、四種類の発見を目標にした。長淵、寺ヶ瀬では生息場所の説明を聞き、小石を裏返し探したが見つからなかった。岡田理事長は「三種類の小型サンショウウオが一方所に生息しているのは珍しい。オオサンショウウオが生まれてくるのも貴重です」と、三段峡一帯の生息環境の良さを解説した。同研究所は今後、生息調査の許可を申請し、継続的なモニタリングを実施する。

三段峡の樹木ガイドブック編集会議が七月二十一日、岡山理科大学の星野卓二教授を中心とした調査チーム、安芸太田町の二見重幸企画課長、本宮炎理事長、本宮宏を招いて、さんけんは景観や歴史分野の解説、写真撮影などを担当する。二百名程度。発行は安芸太田町、来年三月を予定している。

## 三段峡のガイドブック 町が来年三月発行予定

## 景観・歴史の解説で協力

美事務局長が出席して町役場で開かれた。ガイドブックでは探勝路に沿って全コースの樹木を中心とした植物や見どころを紹介する。さんけんは景観や歴史分野の解説、写真撮影などを担当する。二百名程度。発行は安芸太田町、来年三月を予定している。

安芸太田町加計の山田千秋さんの呼びかけで、荒谷株式会社焼酎と地元食材を使った「さんけんBar」が七月五日、十二人が参加して三段峡ホテルで開かれた。菊芋焼酎などや特製アイスバインをホテルが光る三段峡で楽しんだ。宿泊客の増加を狙う夜の提案イベント。

## 自然の中で、共に楽しみ学ぶ! インタープリター 養成講座

### 参加者募集

- ★講師 川嶋直氏 (日本環境教育フォーラム理事長)
- ★9月1日(土) 10時~18時  
2日(日) 9時~13時
- ★三段峡ホテル(三段峡正面口)
- ★一般: 6,000円 大高生: 3,000円  
さんけん会員: 5,000円
- ★問い合わせ・申し込み・締め切り  
☎090・3421・3046 (本宮) / 8月27日

## 川嶋氏と養成講座打ち合わせ 豪雨で現地視察は見送り

九月一、二日の両日開催するインタープリター養成講座の打ち合わせを七月七日、広島市内で開いた。講師の日本環境教育フォーラム・川嶋直理事長は六日に現地視察する予定だったが、西日本豪雨のため、やむを得ず変更した。さんけんからは本宮炎理事長と本宮宏美事務局長が出席した。養成講座は、未だ来を待つ子ども達に贈る公益財団法人マツダ財団市民活動支援事業の認定を受けて実施する。

## さんけんBar開催 ナイト企画を提案

安芸太田町加計の山田千秋さんの呼びかけで、荒谷株式会社焼酎と地元食材を使った「さんけんBar」が七月五日、十二人が参加して三段峡ホテルで開かれた。菊芋焼酎などや特製アイスバインをホテルが光る三段峡で楽しんだ。宿泊客の増加を狙う夜の提案イベント。

## 三段峡と内黒山でサンショウウオ観察会

### 南峰と歩く

### ⑫ 天狗ヶ岳(てんぐがだけ)

### 一大絶壁 多くの景勝の借景に

女夫淵を過ぎると探勝路は急坂となり、峠からは景観が一気に開ける。眼下には「石樋」があり、正面に三段峡の主峰とも呼ぶべき天狗ヶ岳が聳え立つ。その大きさを「石樋」だけでなく先に続く「関付」「ぐるの瀬」「瀬戸」などの景勝の借

景として機能している。■山水画の世界構成 三段峡の主峰と書いたが、実際の稜線は遥かに高く、天狗ヶ岳は山裾に張り付く岩壁に過ぎない。谷底に近いほど傾斜が急になるので、探勝路からは稜線は

見えない。それがかえって岩と樹々を強調し、川床の石や清流と調和して、山水画的、庭園的な世界を構成している。見えている以上に、水量や自然のバックヤードが広く豊かだと言える。

と云うのでこう名付けられたのであろう。」と、熊南峰は記している。■天狗はイヌワシ? 以前、鳥類専門の上野吉雄氏から、「天狗はイヌワシのことだろう」と聞いた。岩壁に営巣し、両翼を広げると

二匹にもなる。その様が天狗に見えたのかも知れない。現在、西中国山地で営巣は確認されていないが、たまに幼鳥が飛来するらしい。狩りをするには広大な草原が必要で、人の手が加わらない限り、草原は維持できない。(松尾 俊孝)

## 西中国山地の申し子

上野 吉雄さん

### この人



芸北の農家に生まれた。鮮やかな新緑や紅葉、2メートルを超える大雪など豊かな自然に囲まれて育った。高校生のときには西中国山地をバイクで走り回り、三段峡では危うく遭難しかけた経験もある。

鳥に関心を持った小学5年生は今、鳥の専門家として欠かせない存在。西中国山地自然史研究会の設立当初からのメンバーだ。「多くの人に西中国山地の自然を知ってもらいたい。その基になる自然史をまとめている。さんけんはそれをエコツーリズムに活用してほしい」と話す。さんけんでは顧問的な存在である。(炎)